えくてびあん

立川と語ろう　立川に生きよう
January 2021
Écoutez Bien　Vol.37　No.430

1

コロナ禍に負けない立川

表紙／多摩川の初日の出

新・砂川深層 4

明治初期砂川に在った教会と宣教学校

大正10年頃の砂川村

案内人：豊泉喜一氏

今ではちょっと信じられませんが、今から130年ほど前、明治の初め砂川村の村民がキリスト教の教会を自力で建て、宣教学校まで造りました。江戸時代には、宗門人別帳などでキリスト教は厳しく取り締まられていました。それから間もない明治早々、江戸から遠く離れた片田舎の純農村であった砂川村に、早くも西洋文明のキリスト教の教会が作られ、更に付随して宣教学校まであったことは驚きです。

明治維新の直後、砂川村開拓以来名主を務めていた砂川家には、なぜか主に元仙台藩士の食客が16～7人いたそうです。その中には後の五日市憲法草案を作ったと言われる、千葉卓三郎などもいました。砂川にキリスト教を持ち込んだのは、その仙台藩士の1人、竹内寿貞という人で、明治4年（1871）頃砂川に入り、キリスト教を布教したようです。

やがて信者も徐々に増え、明治13年（1880）には早くも51人の信徒が生まれ、東京では4番目に建立された「聖トマス教会」ができ、フランス人宣教師など度々巡回していました。竹内寿貞という人はその後政府の役人になり、晩年には仙台市長に立候補するなど、多方面で活躍しました。彼の後任に同じ仙台藩士であった一条哲郎という人が入り、その頃には砂川の信者の中からも数人の人達が教会の運営にあたっていました。

教会があった場所は、現在の上砂町3丁目、二番組公会堂付近。明治18年（1885）現公会堂の東隣、島田泰之進の屋敷に間口4間、奥行き8間、付属施設を入れて35坪余りの建物でした。信者は教会がある砂川二番を中心に東西に広がり、現武蔵村山付近までおよびました。洗礼を受けたイグナショ、ペトロ、マリア、カタリナ、など洗礼名持つ信者が百数十名にまでのぼったといわれています。不思議なことに、砂川三番にある臨済宗流泉寺の墓地に、十字架と嗎太杤（マテオ）や美加伊羅（ミライカ）など洗礼名が刻まれた墓石が存在します。

しかし、明治の文明開化と共に砂川に広まったキリスト教は、明治末期には徐々に衰え昭和の初めごろには信者の数が僅か10名になり、昭和16年（1941）砂川の「聖トマス教会」は閉鎖されました。祭具は信者の家に引き取られましたが、祭壇は昭和20年（1945）8月の空襲で焼けてしまい、八王子の教会が再建されたときそちらに移されました。この「聖トマス教会」はどんな建物であったか、そのイメージ図が、立川市立第九小学校創立百年記念誌「あしっこ」に掲載されていましたので転載させていただきます。

また教会に付属して、明治15年（1882）いわゆる日曜学校ではなく、私立小学校も開設され30人ほどの生徒がここで学び、当時の村立小学校と同じ形式の、卒業証書が存在しています。この学校も明治18年小学校令発令と共にわずか数年で消滅してしまいました。明治維新の新しい時代の流れの中で、多摩地域でいち早く開花した砂川のキリスト教も、現在ではその存在を知る人も少なくなり、改めて時の流れを感じます。

天主堂イメージ図

宣教学校卒業証書

参考文献：多摩郡砂川村の記録–堺幸之助遺稿を中心に–（砂川今昔物語）　沼謙吉編集
資料提供：立川市立第九小学校創立百年記念誌「あしっこ」

［インタビュー］

きらり！この顔

Tachikawa Inside Outside
あの人、この人、立川人 81

［ 立川に育まれて ㉒ ］

観測継続こそが大事

コロナ禍の第62次南極地域観測隊

2020年11月20日。南極地域観測隊が「しらせ」で出発した。
コロナ禍の観測隊、観測史上初めての事態。
出航までの日々をその全てを知る人に語ってもらった。

――第61次隊として3月20日に帰国されて、すぐ62次隊の準備に入られたのですね。

熊谷　そうです。感染者数が増えてきた時期ですから、計画は1から建て直しでした。苦しかったですね。遅れは第63次で取り戻すということになります。

――一般人に一番わかりやすい変化は、飛行機を使わずに南極観測船「しらせ」で直行直帰するということです。南極で働く時間が短くなるということですか。

熊谷　そうです。燃料を途中で補給しないので全体の活動期間がまず短くなり、同時に何もしないで「しらせ」に乗っているだけという時間が長くなります。従来、オーストラリアまで飛行機で行っていたものが、船で日本と南極を往復するわけですから。

――どのくらい変わるのですか？

熊谷　日本からオーストラリアまでだいたい2～3週間みているので、その往復は長いですよね。95日の行動期間中、いわゆる昭和基地沖での行動は30日程度。それ以外は全部海の上ということになります。

――南極で働く時間が短くなるのですから、何かを変えなければならない。

熊谷　変えてはならないと考えたのは継続が必要な観測です。コロナだからと観測を中断して途切れてしまうと穴埋めができません。そうした観測は止められないので、まずその継続を最優先しました。通年観測しているものが多いですから、越冬については当初通りの計画です。削ったのは夏隊です。

――夏に頑張る観測隊というイメージですが。

熊谷　その通りです。ですから、昭和基地での設営作業と呼ばれる建築などについては減らしていないです。夏隊の隊員は通常50人いるところを今回は13人のみ。夏隊の研究観測と呼んでいるカテゴリーの観測を大幅に切ったので、夏隊の観測はだいぶ少なくなっています。

――「苦しかった」というのは…。

熊谷　削ったのは研究者なわけです。研究者の皆さんは何年も前からこの時のために準備をしていきている。大学から南極に行くのはそんなに簡単なことではありません。来年だと行けないという方もいるわけです。そういう人たちの計画を削らなければならないというのは、研究者の研究のために働いている我々としては断腸の思いです。大切にしなければならないのは研究者の研究です。それを切る判断をせざるを得なかったのは、正直だいぶ苦しいことでした。

――以前、南極は寒すぎてウイルスが生きられないと聞いたことがあります。コロナウイルスは死滅しないのですか。

熊谷　コロナウイルスが死滅するかどうかはわかりません。まだ南極に持ち込まれた事例がないですし。ただし、一般的に南極の極低温環境では、ウイルスの活動が鈍いと考えられます。実際昭和基地で越冬中に風邪をひいたという話は聞いたことがないですね。ただし、夏期間に「しらせ」が到着し、新しい隊員が入ってくると、彼らが持ち込んだウイルスで風邪が流行るというのはよく聞きます。

――そういうこともあるんですね。

熊谷　持ち込んでも致死率の低いウイルスならいいのですが、今回は致死率ばかりでなく治療の方法が確立していないのですから。

――観測隊の準備期間中、研究機関の建物全体が慎重になっているイメージでした。

熊谷　我々よりも観測隊と距離のある方の方が心配していた様子はありましたね。私たちは仕事をする上で観測隊と接しないという選択肢はないので、最初から心配しても仕方ないだろうと、早い段階、5月くらいから感染症の専門家や公衆衛生の専門家に入ってもらってずいぶん議論してきました。治療薬がないことは大きな問題ではありますが、元々観測隊員は充分に厳しい健康診断を通った方が集まっていて、免疫力が低いとか体力がないという方はいません。観測隊は特別だからといろいろご提案頂いたのですが、どうぞ普通にしていてくださいと所内にはこちらからお願いしていました。ただし、出発が近づいてきた10月半ば以降は、隊員室への立入りを制限させてもらいました。国内の状況も定まらず、日によって方針が変わって何が正解かもわからない中で、国内以上に不確定要素の多い南極という場所に人を出すにあたり、何を準備したらいいかということは試行錯誤の連続でした。

――観測史上初めてのことですものね。

熊谷　こういうことはいずれ歴史が判断するのだと思いますが、だいぶ的はずれなこともしてきただろうし、あるいはやらなければならなかったことをやっていなかったということもあったかもしれない。

――例えば？

熊谷　PCR検査を観測隊員に3回しているんです。隔離に入った時とその後と、始めはその2回でいいということでした。が、もう1回やっておいた方がいいだろうということで、実は隔離前の10月半ばにもやっているんです。PCR検査の感度には問題があるということですから、もっと本気で持ち込まないことを考えるなら、PCR検査に頼らないで隔離を3週間すればいいのではないか。3週間隔離すれば、PCR検査の結果に関係なくウイルスの持ち込みは防げるはずだという議論もあったんです。でも、3週間の隔離、国内で誰にも会わずひとりでいるというのは、メンタル的に本当にやっていいものかどうか。2週間でもきついと思います。何があってもおかしくない。だいぶ悩みました。

――メンタルはきついですよね。

熊谷　感染症対策には変数が多すぎて、何から決めていいのかわからない。何度も南極観測COVID-19ワーキングというグループを作って話し合ったのですが、お医者さんの集まりですから、日中は診察されているわけで集まりは大抵夜なんです。Zoomで繋いでやっていましたが、毎回夜遅くなりました。

――観測隊員には医療隊員もいますよね。

熊谷　観測隊に参加する医師、医療隊員も「最後は医療隊員の判断で」なんてこと言われちゃうと、感染症の専門家でもないわけですし、1つ1つの判断基準を決めても状況が変わるとそれもわからなくなるので、何かあったら集まって相談するということに落ち着きました。集まって1から議論するしかないですよね。

――綱渡りですね。

熊谷　完全に綱渡りですね。残念ながら、絶対大丈夫だという対策が組めたとは思えない。それは海上自衛隊の「しらせ」側もそうです。「しらせ」の乗組員も洋上で2週間隔離しています。理想論はいろいろありましたが、無駄かもしれないけれど少しでも効果があると思われるならやるしかないということで、船に乗ってもマスクを2週間くらいすることにしているんです。

――さらにマスクですか。

熊谷　観測隊員が実施している感染症対策をもってすれば、観測隊員がコロナウイルスを船に持ち込む可能性は0.01％未満と計算で出ています。1％がそもそも0.01ですから、1％に満たない可能性に対して、その上に三密を避けてマスクをするのはたぶんやり過ぎだと思うんです。思うのですが、わからないんです。わからないから不自由でもやるしかない。

――それにしても削られた研究は残念でしたね。

熊谷　そうですね。一部なんとかならないかという意見もありましたが、南極観測に関しては自然を相手にしているのだから仕方ない、次の機会を待った方がよいと、研究者の皆さんは理解してくれたのかなと思います。自然を相手にしているとそういう考えになりますからね。

――夏隊はトンボ帰りのようですが、いつもと同じようにギリギリまでいることはできないのですか。

熊谷　燃料の関係でできないです。他国の船と違い「しらせ」だから燃料補給なしのドラスティックな計画ができるのですが、できるのならリスクを回避するために途中で燃料を補給しないで、確実に南極での人員の入替と物資の輸送を成し遂げようということで、今回は直行直帰になりました。

――ラミングは大きな問題ではないですか。

熊谷　「しらせ」は氷の無い海域を走っている分には燃料は食いません。が、氷を割って進むラミングが始まると燃料がいってしまうわけです。昭和基地周辺の海氷の調査はしています。53次、54次のように接岸できなかったということはないだろうと見ていますが、あとは風次第でしょうか。

――温暖化が言われていますが関係はないのですか。

熊谷　昭和基地周辺にはまだ温暖化の影響は目に見えて現れてはいません。問題なのは風と波です。

――熊谷さんご自身は北極観測のご担当もされていました。北極と南極とは異なりますか。

熊谷　北極はニーオルスン基地に行きました。南極とは全然違いますね。極地研の南極観測センターのスタッフにも、北極を見て勉強して欲しいなと思っています。基地は南極だけではないので、いろいろな基地の運営の仕方を見ることによって、今後昭和基地がどうあるべきかを考える参考になると思います。

――11月20日、作業艇で2回に分けて観測隊員が沖に停泊中の「しらせ」に乗船し、無事に出航しました。コロナ禍の観測隊について改めて、どうお考えになっていますか？

熊谷　コロナがひとつのケーススタディにはなったと思っています。研究者には研究に専念してもらいたいので、研究者の時間を拘束するのはできるかぎり短時間であることが望ましい。今まで当然だと思っていたFace to Faceの打ち合わせとか訓練とかが必ずしもそうではないということがわかりました。従来観測隊は必ず一筆書きで、全員で行って全員で戻るものでした。でも実は6月の時点で、今回の行程に基本プランとオプションプランの2プランを用意していたのです。基本プランは、お話した通りの直行直帰。オプションプランというのは昭和基地に行って帰ってきた人あるいは越冬して帰ってきた人は、オーストラリアで船を降りて飛行機で帰国する。そこから先の海洋観測だけ行きたい人は、そのタイミングで「しらせ」に乗って1か月くらいの海洋観測をして、終われば飛行機で帰国するというものです。研究者の拘束期間は1か月くらいで済みます。早く終わった人は早く帰る。自分のやりたいことだけパッと行って行うこともできるわけです。今回は最終的にオプションプランは実現されませんでしたが、そういうプランが組めるという前提で今後は計画できるわけです。今までもこうしたプランは望まれていたのですが、多くの障害があって実現できなかった。でも今回文部科学省さんとも防衛省さんとも話をした結果、オプションプランではありますが、そういうプランが組めた。今後次の6か年計画を練っていく際に、非常に有効なケーススタディになったと思います。

――コロナを乗り越えて前に進んでいる。すばらしいですね。

熊谷　今回できなかったこともあるし苦労したこともいっぱいあるのですが、それでも我々が大事にしてきたことを続けられるということ自体がポジティブに受け止められることと、さらに今後に向けてのケーススタディがある程度できたという部分は大きな成果だと、私は思っています。観測成果そのものではありませんが、ポジティブな部分が皆無だったわけではなくて、この状況下でもやれることはやった、新しいことも試みたということ、それも極地研全体で検討したことなので、それは誇らしいなと思います。それを今後につなげていけるかどうかは我々の働き次第なのですが、そこは楽しみな部分ですね。

熊谷宏靖氏

国立極地研究所 南極観測センター 企画業務担当副マネージャー。2009年新しい砕氷船「しらせ」就航時に極地研広報室に所属、教員派遣プログラムなど実際に現地で携わるため第51次夏隊（庶務）に参加、その後文部科学省の補助金事業「グリーン・ネットワーク・オブ・エクセレンス」事業で、北極気候変動分野の中核研究拠点として国立極地研究所が採択された際、北極観測センター企画チームとして参画。2015年第58次夏隊（国際連携観測）、2019年第61次夏隊（副隊長）に参加。常に隊員1人ひとりが100％の力を出せるよう環境を整えることに専念してきた。コロナ禍の第62次隊の準備に対しても出発ギリギリまで気を抜くことなく徹する仕事人。

若い力はコロナを破る推進力

立川の街かどに、美味しい、きれいが咲いてます

**コロナ禍とうつむきがちな世の中に、
自分の力を信じて前に進む人たちがいます。
応援したい、若い力！**

〈 Natur 〉

2020年秋にオープンしたドライフラワーのお店です。お教室もやっています。場所は西砂町、鈴木農園の敷地内。
小さな空間ですが、店主のセンスが溢れています。柔らかな秋の日差しをリネンのカーテンがさらに柔らかくドライフラワーを包んでいます。

お店の入口にも柔らかな日差しが差し込んでいます

ドライフラワーだからこその柔らかさ

どことなく欧風な空間

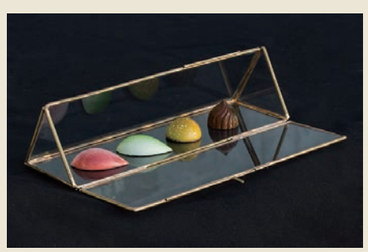
花は乾燥しても美しい

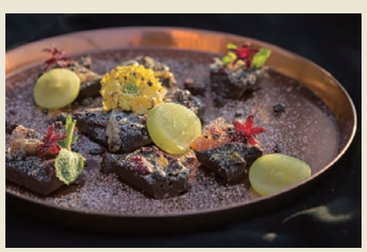
木の実もたくさん

植物の持つ個性をうまく生かして

〈 The Dragonfly Bar 〉

チョコレートが揃いました。前号でご紹介した「ショコラチエ エレガンス」のオリジナルチョコレート。立川土産に最適です。ボンボンショコラもいいけれど、キャンバスに描いた絵のような板チョコはおススメです。場所はTACHIKAWA STAGE GARDENの屋上です。


それぞれ異なる味わいのボンボンショコラ


板チョコ1枚を割って一皿に

楽しい4種の味わい　ピンクはルビーチョコレート

〈 お菓子工房Home 〉

おいしいドーナツのお店です。ドーナツだけではないのですが、とにかくドーナツはとても美味しい。
種類もいろいろあって迷ってしまう。2020年11月11日11時11分に、西砂町鈴木農園敷地内にオープンしました。〈Natur〉さんのお隣です。

お店の入口も素朴です

以前、パン屋の「かいじゅう屋」さんがあったそのままの雰囲気で

アーリーアメリカンなドーナツって、本当はこんな感じ？

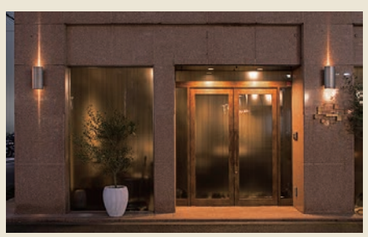
ドーナツはテイクアウトできます

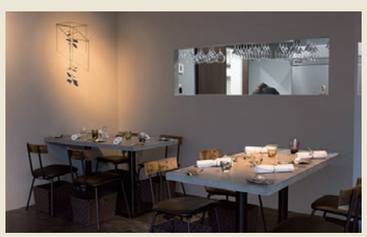
どれを食べても美味しい

ケーキもあります

〈 L'ASYMÉTRIE 〉

フレンチレストラン。2020年12月1日にオープンしました。
老舗「シェ・タスケ」の若いシェフが独立、素材の旨味をうまくフレンチに仕上げています。
タスケ時代のメニューと同じ、同じスタッフが同じ笑顔で皆様をお待ちしています。場所は国際製菓専門学校の南側、斜め前です。

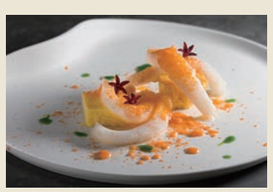

道路に面した高級感あるお店入口


アルコール消毒だけでなく、ご面倒でもお客様には手洗いをお願いしています

カラフルなサラダ

鹿肉を美味しく

お魚もシンプルに
この日はヒラスズキをほうれん草のソースで


白いイカには人参のシャーベットソース

※この他にも、柴崎町や錦町に新しくオープンしたお店があります。新店舗情報は多摩てばこネットをご覧ください。

えくてびあんの輪

えくてびあんはリストのお店にあります。
今月は 幸町・若葉町・栄町
高松町・曙町 のお店です。

幸町
- いなげや 立川幸店 …… 537-1820
- たましん 幸町支店 …… 535-5311
- 中国料理 SANFUJI …… 536-3813
- 西武信用金庫 幸町支店 …… 537-3101
- お米屋さん 大黒屋 …… 536-0851
- (株) 松浦商事 …… 536-6001
- 至誠キートスホーム …… 538-2323
- とんかつ・割烹 かつ亭 …… 535-4611
- ドイツ製法ハム・ソーセージ ゼーホフ工房 535-5009
- 和洋菓子 たちばな …… 537-0347
- BS タイヤショップ 佐藤商会 537-0912
- 在宅療養支援診療所 立川在宅ケアクリニック 534-6964
- 古楽の小屋 ロバハウス …… 536-7266

若葉町
- 浅見内科医院 …… 537-0918
- スーパー ヤオコー …… 538-1711
- ありた整骨院 …… 534-1622
- カフェ タイニーガーデン …… 507-1346
- カフェ・レストラン てくたく 536-5788

栄町
- たましん 栄町支店 …… 536-9711
- いなげや 立川栄町店 …… 523-7201
- チーズ王国 本社 …… 513-4101
- 高橋酒店 …… 522-4479
- 彩食中華 須崎 …… 507-0981
- 寝具の石川 …… 524-1333
- 手作りパン工房 Bonheur ～ボヌール～ 536-3207
- FUKUSHIMAYA 立川店 534-1700
- 相模屋酒店 …… 536-2476
- メンズカット ヤザワ …… 536-8738
- 大型コインランドリー マンマチャオ栄町店

高松町
- ルーデンス食堂
- 米穀・食料品 横町屋 …… 522-2609
- 中華料理店 太幸苑 …… 527-0906
- セイロン風カリー シギリア 507-2418
- ライブハウス Crazy JAM 529-9507
- 立川湯屋敷 梅の湯 …… 522-3800
- ヘアーサロン イトウ …… 522-6281
- 立川伊勢屋 本店 …… 522-3793
- 大野サイクル …… 523-2061
- 立川キリスト教教会 …… 526-6826
- サロン・ケベクア美容室 …… 527-4716
- HAIR MAKES たしろ …… 525-2175

曙町
- うなぎ しら澤 …… 524-5061
- 中華料理 福心楼 …… 524-2343
- 久住ハウジング (株) …… 527-8007
- 不動産 大晋商事 …… 525-3110
- ヤマハミュージックアベニュー立川 523-1431
- 蕎麦懐石 無庵 …… 524-0512
- TABACCONIST ゼフィルス 524-0514
- あら井鮨総本店 …… 522-2957
- 大衆劇場 立川けやき座 …… 512-5057
- 立川伊勢屋 ルミネ店 …… 524-3395
- たましん すまいるプラザ立川 0120-667-646
- オリオン書房 ルミネ立川店 527-2311
- みずほ銀行 立川支店 …… 524-3121
- コスメドール 辰己屋 …… 524-6051
- エミリーフローゲ 本店 …… 527-1138
- キャフェ クリムト …… 526-3030
- 黒毛和牛専門店 焼肉 FUKI 523-0166
- 宮地楽器 MUSIC JOY 立川北 527-6888
- HONEY BANANA …… 523-8200

jorakugajo
真如苑提供番組〈常楽我浄〉
スカパー！：529ch
スカパー！で放送の常楽我浄は
スマートフォンアプリ「 ivy 」(無料) で視聴できます。
J:COM 多摩：11ch・111ch
放送時間については番組表をご確認ください。
www.shinnyo-en.or.jp

街の話題 TOPICS OF TACHIKAWA

飛行機の里帰り

旧日本軍の単発練習機を造っていた立川飛行機が、初の双発機として製作した一式双発高等練習機。1943年原因不明で十和田湖に水没した機体を2012年に青森県航空協会が引き揚げ、青森県立三沢航空科学館に展示されていましたが、この度故郷の立飛HD敷地内倉庫に里帰りしました。まだ分解された機体がそのままにされていますが、陽の光の射さない湖底深くから引き揚げられ酸化が進んだと言われている割には美しく、思わずお疲れさまと声をかけたくなりました。

十和田湖から引き揚げられた時の様子

名盤

胴体部分中ほど

胴体部分先頭

主翼

お客様を半分に 立川落語会例会

11月28日 (土) アイムホールで、抽選でお客様を通常の半分に制限して立川落語会例会が行われました。いつもなら中入りには賑やかにお茶とお菓子がふるまわれるところですが、それもなし。でも楽しいひと時となりました。満席の会場で例会が開かれるのはいつになるのでしょうね。

大喜利の様子　お客様の座席はひとつおき

TACHIKAWA STAGE GARDENで元日相撲開催です

コロナ感染症拡大の影響で、アマチュア相撲界も大打撃。中学、高校の全国大会が悉く中止となりました。中学横綱も高校横綱も誕生しないのは史上初です。相撲は古来、疫病や大災害などからの終息再生復興を祈願する神事として全国に広がり継承されてきたもの。ならば、途絶えさせないためにも2021年の幕開けを立川で開催、若き相撲選手たちにエールを送ります。2021年1月1日「立川立飛・元日相撲」の解説は中学選手権 斎藤一雄氏、高校選手権 花田虎上氏。当日の模様は、TOKYO MXテレビで放送されます。(感染症対策のためチケットは販売されず、収容人数の1/3にあたる800人程度、関係者のみの入場となります)

「立川立飛・元日相撲」記者会見の様子
左から公益財団法人日本相撲連盟専務理事 安井和男氏、立飛HD 取締役 藤本勇氏、立飛HDスポーツプロデューサー・相撲記者クラブ会友 刈屋富士雄氏
(於：オリンピックスクエア)

赤とんぼ保育園とビーチサッカー

ビーチサッカー日本代表を5人も輩出している東京ヴェルディ。さらに日本代表チームの監督は同チームの茂怜羅オズ選手という日本最強の東京ヴェルディ。11月17日 (火) に、練習拠点であるタチヒビーチお隣の赤とんぼ保育園を訪問。園児たちとビーチサッカー交流をしました。園児たち、よくわからないかもしれないけれど、すごい人たちとの練習でした。

今回は、小説家 川上弘美さんとの対談です

「ぶらっと国文研」の企画で、夏に宮本亞門さんとの対談をされた国文学研究資料館長のキャンベル先生。今回は小説家の川上弘美さんと対談されました。川上さんはかねてより国文研の「ないじぇる芸術共創ラボ」で「伊勢物語」の専門家たちとのワークショップに参加されていました。古典の専門家でない川上さんの疑問は「在原業平はなぜもてる?」そこから着想された『三度めの恋』は現在書店で平積みになっています。夢を手段に時代をワープし、モテ男をテーマにその時代をリアルに読ませる。さすが！と声がでてしまう作品です。立川の研究機関からこんな小説が生まれるなんて…。この様子は中央公論に掲載される予定です。

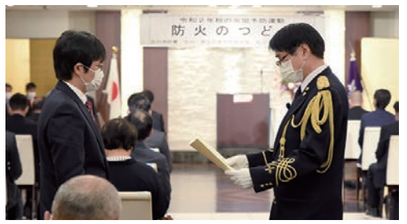
立川飛行場戦前史はズバリ、これでしょう！

えくてびあんが旧陸軍立川飛行場について語る時、いつも頼りにしている横川裕一氏が、陸軍立川飛行場について20年間調査研究された成果を三部作として上梓されました。本編は「開設100周年記念　立川飛行場戦前史」、付帯資料として「鳥瞰で見る立川飛行場」、さらにマニア垂涎の「立川の空を舞った飛行機たち」の三冊です。旧立川飛行場についてこんなに詳しくまとめてある本は他にありません。ご興味のある方はぜひお手にとってご覧ください。AmazonPODにて販売中。

防火のつどい 立川消防署

毎年この時期に行われる「防火のつどい」。立川消防署管内で消防予防活動に功労のあった方々が表彰されました。11月9日 (月)、ホテルエミシア東京立川において、立川消防署、立川・国立災害予防研究会、立川・国立防火防災協会の共催により開催されましたが、感染症対策を重視して簡略化されての式典でした。消防署長のお話によれば、11月7日までの立川消防署管内火災発生数は49件で、昨年より少なく火災による死者は出ていないそうです。また救急出動回数も昨年より2000件以上少なかったのだとか。これから寒さのピークに向かいます。コロナ対策で家にいる時間が長くなるかもしれません。それぞれが火事を出さないよう、しっかり取り組んでいきましょう。

立川消防署長のご挨拶



今年は署長がそれぞれのお席に表彰状をお持ちしての贈呈です。写真は優良防火対象物の防火安全の維持に関する功労で4年連続表彰される真如苑さん

立川市消防団教育的訓練

11月29日 (日)、今季一番の寒さになった早朝、泉町の第八方面訓練場で立川市消防団の教育的訓練が行われました。消防団の団員の中でも実際の火災現場で活動されたことのない方を中心に、現場での動きや可搬ポンプの使い方、またチェーンソーの使い方など、消防署の方々が先生になって指導してもらっていました。火災シーズン、消防団の皆さん、ご自身の身体を大切によろしくお願い申し上げます。

実際に水を出しての訓練

表紙

立川の初日の出

元日、立日橋から見る太陽は、東京湾へと急ぐ多摩川の真ん中から昇り、短い1日を終えて日本の最高峰 富士山へと落ちていきます。海と山、しかも富士山とつなぐ、こんなステキな場所が他にあるでしょうか。朝日と夕陽は似ているようで異なるもの。取り巻く周りの風景が作りだす趣が違います。朝には力が漲って、夕には愛しさが漂います。1年を締めくくる12月号には夕陽を、新たな年を開く1月号には初日の出をテーマにしました。毎月同じような表紙だなと思われた方、朝日の力を感じてください。力強く新しい年を開いて、みんなで困難を乗り越えていきたい。そんな願いを込めました。

かたこと

◆新年号なのにコロナ関連の話題からで恐縮です。記録に残る相撲の始まりは「古事記」にある出雲の国の「国ゆずり」の神話なのだとか。神様同士の国をかけての「力くらべ」が最古の文献と、「立川立飛・元旦相撲」の記者会見で知りました。丑年最初の催しは疫病退散を願って相撲から◆コロナで何もかもが中止といいますが、本誌の「街の話題」コーナーは記事が溢れてしまい、ボツになった話題もあります。それだけ立川は動いているという証拠。掲載できた話題の中には、実はじっくり深めたいこともありました。一式双発高等練習機もそのひとつ。展示された暁には再度深めて掲載しましょう。11月20日に行われた「立川市農産物品評会」もそのひとつ。こちらは「農商連携」として次号に掲載します◆6月にオープンしたソラノホテル。順調なスタートですが、2月から定期休業を導入するそうです。ウェルビーイングがコンセプトのホテルですから、働くスタッフにもウェルビーイングを。さらに全館閉館の機会に館内の徹底した除菌作業も定期的にするのだとか。ホテルが休業?と思う反面、安心につながる決断です。そのソラノホテルで2月13日と14日、将棋の第70期王将戦7番勝負第4局が行われます◆コロナ禍でも、頑張る人は頑張っている。その姿を今年も追いかけてまいります。

えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ©
1月号　第37巻　通巻430号

令和3年1月1日発行
発行　有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082　FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL https://www.tamatebakonet.jp
発行人　黒須 環
企画・写真・編集　えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
印刷　三浦印刷株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

昭和のデパート

the SOUND of Oldies in TACHIKAWA COLLECTION

フロム中武の屋上にフットサルコートがあると聞いて驚いた。なにしろデパートの屋上なんていつ以来登っていないか。オレの記憶にあるデパートの屋上は遊園地だった。あの頃のデパートは屋上に遊具があるのが普通だった。中武にはコーヒーカップがあったし、長崎屋だか高島屋の屋上にはゴーカートもあった。その屋上へ誘う階段には、今でいうペットショップのようなものがあった。ハツカネズミとかチョウチョとか虫、それもカブトムシとかクワガタなどという立派なものではない、せいぜいバッタのようなものしかいなかったな。中武の階段の踊り場には、透明な丸い天井に噴水のように吹き上げるオレンジジュースの自動販売機があった。1 杯 10 円なので我々には助かる飲物だった。駄菓子屋で売っている袋入りの粉ジュースと同じような味がした。三角錐の紙コップで飲むのだから、一気に飲み干さないとどこにも置けない。

食堂もそれぞれの店で特徴があった。長崎屋には「エポック」という食堂があり、カツカレーがお気に入りだった。中武は昔の電車の切符みたいな食券を買うシステム。デコラ板の折り畳み式テーブルが並んだ学食のような雰囲気だった。丸井の食堂は森永がやっていて、憧れた。ショーケースがハイカラだった。中に入ると、窓からは西側に広がる立川基地が一望できた。あの頃デパートは、社会を学ぶ所でもあった。

語り：鈴木 武 氏（立川印刷所社長）